



EVRI

教育ビジョン研究センター

ISSN-L(PRINT): 2435-8134 ISSN(ONLINE): 2435-8037

EVRI研究プロジェクト叢書 Vol. 12

Bulletin of the EVRI Research Project (Vol. 12)

2021年度東広島市広域交流型 オンライン地域学習

—2021年11月実践「『伝とう』って変わっていいの？
私たちのまちの伝とうと未来を予想しよう」—



EVRI

目次 CONTENTS

1. プロジェクト全体計画 03

2. 実施要領 07

3. 資料 13

黒板に貼り付けるパネル
発表用テンプレート・板書計画
ワークシート
参考資料

4. 実施報告 23

5. 児童用アンケートの結果 27

自由記述の分析
量的データの単純集計

6. 担当者・協力者一覧 39

1. プロジェクト全体計画

はじめに

本叢書は、2021年度に広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)と東広島市教育委員会(学校教育部情報教育推進室)の「協働」で実施された「広域交流型オンライン社会科地域学習」の成果を、月別に報告するものである。

詳細は、EVRIのホームページの実施記録に譲ることとして、ここでは「協働」の中身について紹介し、本プロジェクトの意義を指摘したい。

第1に、カリキュラムづくりの協働である。年間計画や毎月のテーマについてはEVRI側で原案を提案したが、最終的な実施計画は、毎月定期的で開催される双方の協議を踏まえて決定された。協議の間では、実施計画書案に基づいて各学級の教師や子どもの動きをシミュレートしたり、各月の研究課題を決めたりして(例えば、T1と子どもと直接対話しよう、学級単位の活動を充実させよう、学級相互の対話を促進しよう)、細部にわたる授業計画の検討と漸進的な授業改善が行われた。

第2に、教師教育の協働である。授業の1週間前には、参加校の教員を対象に教材解釈や授業展開についてオンラインでのガイダンスを実施した。画面上にはEVRIの草原(T1)と市教委の指導主事がスタジオのテーブルに並んで出演し、双方が掛け合いをしながら趣旨説明や質疑応答を行った。あわせて事前のテクニカルな支援を行った。

第3に、学校支援の協働である。授業には、市教委が雇用する技術支援員と、広島大学の大学院生・学部生及びEVRIのスタッフが外向き、授業の運営を支援した。EVRIは必要に応じて教材(写真や統計、ワークシートなど)や機材を提供するとともに、オンラインでの学習環境整備を現場で支援した。

第4に、授業評価の協働である。授業の終了後には、市教委は参加校の管理職や担当教員に、また技術支援員に聞き取りを行い、成果と課題を集約した。EVRIもまた同様に派遣学生から聞き取りを行うとともに、参加校の児童には質問紙調査を行い、結果を双方で共有した。このようにして蓄積されたデータは、次月の実践に活かされた。

このような「協働」が組織的に行われたことが、本プロジェクトの成果と考えている。

読者に注目してほしいのは、本叢書に所収された毎月の記録から見えてくる取組の変化である。実施計画書のフォーマットや提供される教材の量と質は、学校現場の要請や実施の成果を受けて、段階的に変化している。授業中の映像は、ライブ中継の単独から録画との併用へと変わった。中継先は、市内から市外へ、そして世界へと拡大した。T1が授業を行う場所は、中継先のフィールドから大学のスタジオへ、そして参加校の教室へと移動した。これらの変化が意味することの解明は今後の研究に委ねたいが、本叢書はこれらの点を考える基礎的資料を提供していると思われる。

2021年度の成果とその分析は、本叢書以外にも以下の文献に掲載されている。参照していただきたい。

- ・草原和博「越境的対話による教科教育の教室空間の変容－社会科を例に－」『中国四国教育学会第73回大会シンポジウム成果報告書・資料集』日本教科教育学会四国地区・中国地区教育学会, 2021年, pp.13-20。
- ・宇ノ木啓太『オンライン学習を導入した社会科地域学習の変革－理解主義の課題の克服を目指して－』広島大学大学院人間社会科学研究科修士論文, 2022年。
- ・草原和博「学びの民主化ツールを活用して地域学習を変革する」『社会科教育』明治図書, 2022年3月号, pp.10-13。
- ・草原和博「越境的対話による教科教育の教室空間の変容－社会科を事例に－」中国四国教育学会『教育学研究ジャーナル』第27号, 2022年, pp.47-52。

なお、本実践にあたっては、市教委や参加校の先生方、中継先の市役所・企業、地域住民の皆様など、多くの方々のご協力をいただいた。広島大学の学生や EVRI のスタッフには、毎月の実施に献身的なご助力をいただいた。広島大学大学院人間社会科学研究科からは、「令和3年度研究科裁量経費・東広島市連携・広域交流型オンライン地域学習支援事業」の補助金をいただいた。初年次でこれだけの成果が得られたのは、上述の関係機関のご支援の賜物である。ここに記して、あらためて御礼を申し上げます。

私自身は、この1年、90分の生放送のテレビ番組を毎月定期的に制作している感覚を覚えた。番組を作ることの難しさと喜びを、そしてチームワークの大切さを実感した。この経験を、今後の教育・研究に活かしていきたい。

2022年3月31日

広島大学教育ビジョン研究センター・センター長
人間社会科学研究科・教授

草原和博

◆ プロジェクトの趣旨

本書は、広島大学教育ビジョン研究センター(以下、EVRI)が、東広島市教育委員会と連携して行う、市内複数の小学校をオンラインで結んだ広域交流型オンライン社会科地域学習の実践とその成果を報告するシリーズ(分冊)の一部である。

EVRI(センター長:草原和博)は 2021 年度から、東広島市教育委員会と連携して、市内複数の小学校をオンラインで結んだ広域交流型オンライン社会科地域学習を開始した。実践を通して、[GIGAスクール構想](#)の推進によって実現した子どもたちの「1人1台」端末と学校の ICT 環境を活用して、市内各地からの中継を交えながら、東広島市の地理・歴史・政治・経済・文化などについて対話的・双方向的に学ぶことを意図した。さらに、この学びを広島大学の教員と大学院生がコーディネートすることで、実践の円滑な運営を支援しつつ、小学校教員が ICT を活用したオンライン授業を体験し、実践的な知見を獲得することができるよう配慮した。

2021 年度は、2021 年 6 月の試行に基づいて、毎月 1 回 2 時間、テーマを決めて授業を実施した。この企画が実現することで、小規模校と大規模校の子どもが、年間を通して、各地域のようすを比較したり交流したりしながら学びを深められることを意図した。なお、プロジェクトの実施にあたっては、参考コンテンツとして、EVRI が東広島市立図書館の依頼を受けて開発した「[東広島市地域学習用デジタルコンテンツ\(通称「のん太の学び場」\)](#)」を活用した。

[プロジェクト紹介ページはこちら](#)
(右の QR コードからもアクセス可能)

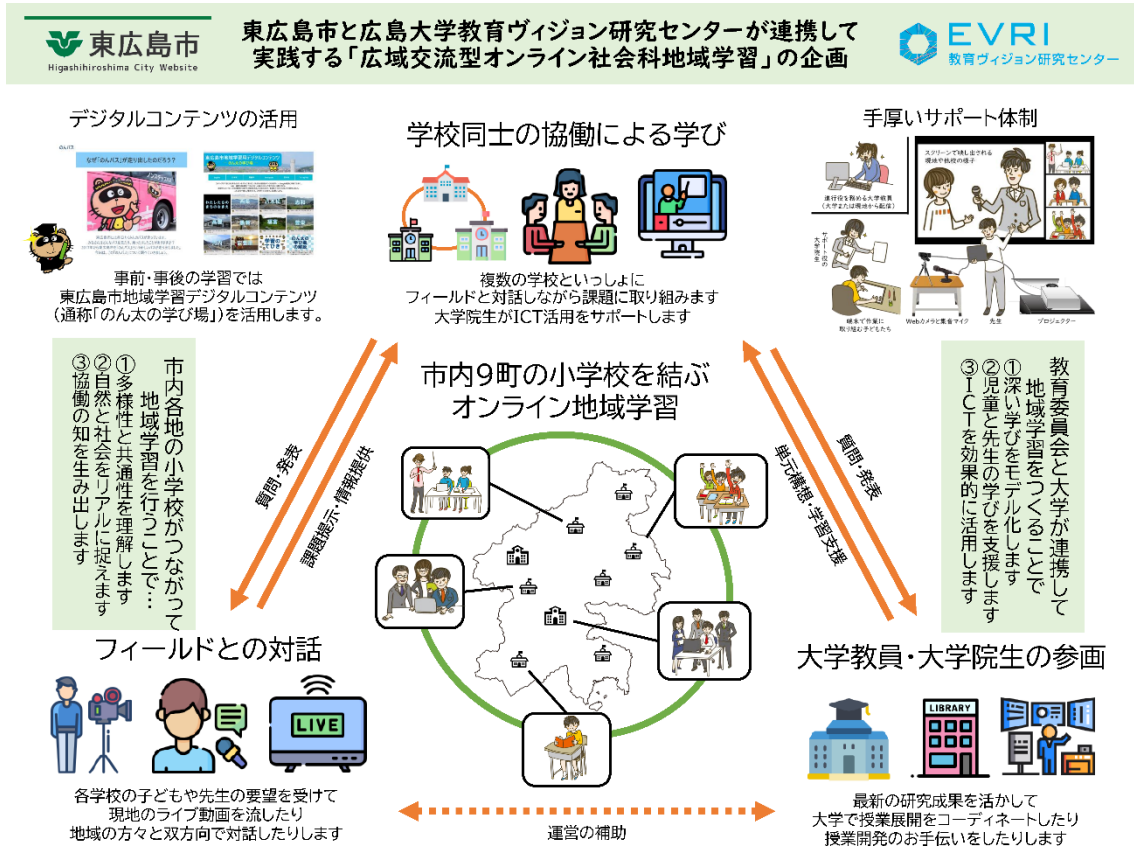


◆ プロジェクトの目的

EVRI が開発した「のん太の学び場」(東広島市地域学習用デジタルコンテンツ)と、東広島市教育委員会作成の小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン社会科地域学習の実施を通して、児童の主体的・対話的で深い学びを創造する。主な目的と実施内容は以下の 4 点である。

- 「東広島市内の小学校」と「学習対象となる地域等」と「広島大学」がオンラインでつながり、遠隔(オンライン)で授業を実施する。
- 遠隔授業の全体進行は、広島大学の担当者が行う。各教室での指導は、各学級の担任等が行う。
- 遠隔授業では、児童が自分のタブレットから参加できる機会を設ける。
- 授業時は、参加校に技術的なサポート要員(大学院生等)を派遣し、授業準備、授業支援、後片付け等を行う。

◆ プロジェクトの実施体制



◆ 実施スケジュール

対象	実施日	単元名
第4学年	2021年6月18日	ピンク色のバスのヒミツをさがれ！仲間をさがせ！ 「バスを比べよう(1)ーピンクのバスのひみつー」
第4学年	2021年6月25日	ピンク色のバスのヒミツをさがれ！仲間をさがせ！ 「バスを比べよう(2)ー私たちの町のバスのひみつー」
第3学年	2021年7月15日	「スーパーと直売所、どこが違う？どこが同じ？」
第4学年	2021年9月15日	「さい書から身を守るーさい書でケンなところ、さい書のサインをさがそう！ー」
第3学年	2021年10月20日	「高屋に新しい消防署ができるらしいよ・・・なぜ？」
第4学年	2021年11月17日	「伝とう」って変わっていいの？私たちのまちの伝とうと未来を予想しよう」
第3学年	2021年12月15日	「駅からみるわたしたちの市のあゆみ」
第4学年	2022年1月19日	「外国から来た人にとって東広島市はくらしやすいか？」
第3学年	2022年2月9日	「もしも東広島に大学がなかったら？」
第4学年	2022年3月9日	『わたしたちの東広島市』の表紙にぴったりな写真を選ぼう」

2. 実施要領

東広島市・広島大学教育ビジョン研究センター連携 「広域交流型オンライン社会科地域学習」2021年11月実施要項

1. 目的

広島大学教育ビジョン研究センターが開発した「のん太の学び場」(東広島市地域学習用デジタルコンテンツ)と東広島市教育委員会作成の小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン社会科地域学習の実施を通して、児童の主眼的、対話的で深い学びを創造する。

2. 実施内容

- 市内の小学校、学習対象となる地域・施設と広島大学がオンラインでつながって、遠隔授業を行う。
- 遠隔授業の全体進行は、大学の担当者(T1)が行う。各教室での指導は、各学級の担任等(T2)が行う。
- 可能な範囲で、参加校には大学より技術的なサポート要員(T3)を派遣し、授業準備、授業運営支援、ICTの活用支援等を行う。
- 遠隔授業では、児童が自分のタブレットから参加できる機会を設ける。

3. 授業の日時および参加予定校

- 2021年11月17日(水)3時間目:10:25~11:10, 4時間目:11:15~12:00
- 東広島市内小学校校の4年生(3校4学級, 51名)
原小(1), 高屋東小(2), 造賀(1)

4. 単元名および目標

- 単元名 「伝とう」って変わっていいの? 私たちのまちの伝とうの未来を予想しよう」
- オンライン地域学習の単元目標

【知識・技能】神楽の歴史を知っている。東広島の伝統文化(芸能や年中行事)の具体例を挙げることができる。

【思考・判断・表現】「伝統」の意味を、①「変わること(適応)」と②「変わらないこと(伝承)」の視点から判断できる。

神楽や白布歌舞伎を事例に、「伝統」芸能が引き継がれる条件は、昔のまま続けることではなく、人々が作り変えることにあることを説明できる。

【学びに向かう力】写真から読み取ったり、お話を聞いたことを根拠にして、伝統を引き継ぐことの喜びや難しさに共感したり、伝統文化の将来の姿を予想できる。また共感や予想を通して、地域の伝統文化(芸能や年中行事)への関心を高めることができる。

【ICT】タブレットを操作して自分の判断を発信できる。オンライン学習に参加して、教室のなかで発表できる。他校に向けて発表できる。

- ・赤色：タブレットの活用場面
- ・黄色：各学級メインの活動場面
- ・青色：中継場面
- ・教室での準備物：ホワイトボードまたはA3の紙、必要に応じてワークシートと補助資料の印刷
- ・教室の基本操作：手を挙げる、カメラにホワイトボードや紙を向ける、チャットで報告、発表時のミュート解除

○ 本時の目標

- ・ 1/2時： 神楽は、なぜ伝統文化といえるのか、その理由を動画・資料の内容を根拠に基づいて説明できる（思考・判断・表現）。
- ・ 2/2時： 私たちのまちの伝統文化は、10年後どのように継承されているか/難しいか、予測できる（学びに向かう力）。

5. 授業展開

T1(草原)の動き	予想される児童の反応	T2(学級担任)の動き	ホスト(広大)の動き
<p>【第1時】 伝統って何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生とレポーターの紹介 <p><導入：給食の伝統></p> <p>Q1 給食の4枚の写真を眺めよう</p> <p>① のん木クイズ (ICT) 4枚の写真を古い順に並べかえよう→答え合わせ</p> <p>② どうして、そんな順番にしたのかな？</p> <p>③ 給食の移り変わりを見て、気づいたことを、たくさん挙げてみよう！</p> <p>④ 学習課題の提示</p> <p><展開：神楽の伝統></p> <p>Q2 「伝とう」。この言葉からイメージすることはなに？</p> <p>① のん木アンケート (ICT) 変わらない vs 変わる</p>	<p>予想される児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お皿の材質や品数で変化が分かるね。メニューは、だんだん洋風になっているな ・品数：少ない→多い ・デザート：なし→ある ・メイン：パン→ご飯？ 逆かな？ ・牛乳はずっと出ているね ・①ご飯・パン+②おかず+③飲み物の組み合わせは変わってほしいという子どもが元気に育ってほしいという願いも変わっていないのかな <p>【1時間目のめあて】： (給食のように)昔から受け継がれているもので、「変わったところ」「変わらなところ」を見つけよう</p>	<p>T2(学級担任)の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QRコードを読んで、児童の端末にアンケート画面を表示させておく ・タブレットでの投票を支援する ・給食のカロリー増加、洋風化。一方で米飯化の動きに気づかせる ・児童の発言を「変わっているところ」と「変わっていないところ」の視点で分類する ・目に見えるところだけでなく、見えない人々の願いにも注目させる 	<p>ホスト(広大)の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの中継先とホストをスポットライト ・Googleのクイズ画面を画面共有 ・1分のカウントダウンをする ・クイズ結果の共有→答え合わせ
	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統とは、「変わらない」ことじゃないかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでの投票を支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・Googleのアンケート画面を共有 ・1分のカウントダウンをする

<p>② では、「伝とう」芸能って何だろう？</p>	<p>・昔から変わらなずに引き継がれてきた踊りや音楽じゃないかな。</p> <p>・安芸高田市だね</p> <p>・勇ましいなあ。かっこいいな</p> <p>・長い歴史があるんだな</p> <p>・昔は、神様の前で、豊作に感謝する行事だったのか</p> <p>・今では祭りを盛り上げたり、人々を楽しませたりするイベントだね</p> <p>・豊作への感謝には変わりのないね</p> <p>・特別な人だけ→いろいろな人が参加の舞い→はなやかな劇地の元祭→まおこし、イベントこれらの点は変わってきたね</p> <p>・うー難しい。神楽は上手に変身し続けているように見える</p>	<p>・「芸能」の具体例を示す。後日配布する写真等を示す</p> <p>・地図で場所を確認する</p> <p>・映像に注目させる</p> <p>・中継とテロップを見ながら、神楽の変化を板書する、写真を貼る</p> <p>・神楽は、信仰や祭礼の場から、徐々に観光化、商業化していることに着目させる</p> <p>・ワークシートの作業を支援する</p> <p>・神楽は「変わらなない」だけでなく、「変わる」ことで、高齢化や過疎化の中で受け継ぐことが可能となった点に気づかせたい</p> <p>・発表したい児童がいれば、「手を挙げる」をクリック</p>	<p>・アンケート結果の共有</p> <p>→短い中継</p> <p>・神楽の動画を再生</p> <p>・市役所担当者の解説録画を再生</p> <p>・担当者のお話をあわせて、写真パネル（神楽の変化）を大きく提示</p> <p>・T1メインに切り替える</p> <p>・手が挙がれば、そのクラスをスポットライトする</p>
<p>Q3 広島県の芸能の1つ、「神楽」について調べよう。</p> <p>① これはどこかな？</p> <p>② 神楽の様子を見てみよう</p> <p>③ 神楽について、お話を聞こう</p> <p>・いつ、なぜ始まった？</p> <p>・一般の人が舞い始めたのは？</p> <p>・戦争の後、どのように変わった？</p> <p>・神楽ドームは、いつなぜできた？</p> <p>④ 神楽で「変わらなないところ」「変わったところ」を探して、ワークシートにまとめよう</p> <p>⑤ なぜ変わったのだろうか？</p>	<p>・児童には自分の判断を発表させる。意見を集約して紙に書いてカメラの前に出す。少数派も大串に扱う</p> <p>・指名されたら、代表児童が発表</p> <p>・神楽は、今でも「変わり」続けていることを強調する</p>	<p>・児童には自分の判断を発表させる。意見を集約して紙に書いてカメラの前に出す。少数派も大串に扱う</p> <p>・指名されたら、代表児童が発表</p> <p>・神楽は、今でも「変わり」続けていることを強調する</p>	<p>・「神楽ドーム」をスポットライト</p> <p>→短い中継</p> <p>・神楽の動画を再生</p> <p>・市役所担当者の解説録画を再生</p>
<p>Q4 変わっている神楽って「伝とう」って言ってよいの？</p> <p>① はい！VS いいえ！</p> <p>② なぜそう思うのかな、理由を教えてください</p> <p>③ 「伝統」を受け継ぐために安芸高田市の人々は何をしている？</p> <p>くふうと悩みを聞こう</p>	<p>・はい。神楽は変わることを受け継がれてきたと思います</p> <p>・いいえ。ちよつと変わりますよ。神楽でイベントしていいのかな</p> <p>・東京や外国で発表したり、高校生に教えて1番を競わせたたりしている</p> <p>・人口が減ると継承は難しいかな</p>	<p>・児童には自分の判断を発表させる。意見を集約して紙に書いてカメラの前に出す。少数派も大串に扱う</p> <p>・指名されたら、代表児童が発表</p> <p>・神楽は、今でも「変わり」続けていることを強調する</p>	<p>・ギャラリービューで参加クラスを俯瞰できるようにする</p> <p>・全てのクラスをスポットライト</p> <p>・「神楽ドーム」をスポットライト</p> <p>→短い中継</p> <p>・市役所担当者の解説録画を再生</p>

<p>【第2時】 私たちの伝統を作ろう <まとめと導入> Q1 1時間をまとめておこう</p> <p>Q2 私たちの東広島市や、みんなの町の「伝とう」文化（芸能や行事）を教えてください</p> <p><展開：かぶき文化の伝統> Q3 白市の「歌舞伎」とは、どんな伝統芸能だろうか？</p> <p>① 白市はどこかな？ ② 白市歌舞伎を見てみよう！ ③ 白市歌舞伎は、これまでで2(3)回終わってしまったらしいよ（学校行事としては、20年以上続いているのか…）</p> <p>④ のん太アンケート（ICT） 白市歌舞伎は地域の「伝統」文化って言ってもよいかな？ ・はい！VS いいえ！ ・理由を教えてください</p> <p>⑤ 学習課題の提示</p> <p>Q4 白市（高屋東小学校）「歌舞伎」のヒミツを調べよう</p>	<p>昔から引き継がれている伝統には、「変わるところ」と「変わらないところ」がある。両方セットでみられるのが、伝統のヒミツだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うーん、なかなか思い浮かばない ・太鼓をやっている人がいる ・学校でやっている「○○」踊りは、伝統って言っていいの <ul style="list-style-type: none"> ・高屋の東だね ・「白波五人男」っていうのかわ装や化粧がすごい、本格的だな ・なぜ無くなったのだろうか？ ・なんで復活したのだろうか？ ・今はどうなっているのかな？ <ul style="list-style-type: none"> ・いいえ。何度も終わっているから ・はい。何度も復活しているから ・一度終わっても何度も復活するのは、フケがありそうだね。どんな「変身」をしてきたのだろうか <p>【2時間のめあて】： 歌舞伎は、どうして復活したの？ 復活のヒミツをさがそう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの結果に基づいて、いくつかのクラス（先生）にご発表いただきます。可能ならば、写真等を使って、分かりやすくご紹介ください <ul style="list-style-type: none"> ・地図で場所を確認する ・映像に注目させる ・年表に注目させる 江戸時代 歌舞伎小屋の始まり 1975年 終わり 1993年 地元の大人のかぶき 2015年 終わり 2019年 地元の子どものかぶき 2020年 コロナで中止（学校行事としては継続中） ・1時間口で学んだ伝統の見方・考え方を働かせる ・指名されたら、代表児童が発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ画面を共有 ・発表クラス（先生）をスポットライト ・歌舞伎の動画を再生 ・Googleのアンケートを画面共有 ・1分のカウントダウンをする ・結果の共有
---	--	--	---

<p>① お話を聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> いつから始まった？ なぜ長栄庵は終わった？ なぜ「おとな」が踊った(復活)？ なぜ終わった？ なぜ「子ども」が踊った(復活)？ 今の喜びや悩みは？ <p>② 白市歌舞伎で「変わらなところ」「変わったところ」を探して、ワークシートにまとめよう</p> <p>③ なんで変わったのだろう？</p>	<p>歌舞伎は、昔はカーブの野球観戦のような遊びだったんだな</p> <ul style="list-style-type: none"> 牛馬市(祭)がなくなったり、演じていた人たちが(忙しくて)集まらなくなったり歌舞伎は終わったのか 歌舞伎を愛する、楽しむ気持ちには変わらな プロの役者→地元の人(素人)大人(お年寄り)→子ども長栄座→地域センター、学校これらの点は変わってきたね 昔の思い出を若い人に伝えたいという願いがあったからかなあ 	<ul style="list-style-type: none"> 中継とテロップを見ながら、歌舞伎の変化を板書する。写真を貼る 歌舞伎は、地域の娯楽から、徐々にまちおこしに変わってきていることに着目させる(歌舞伎は、学校行事としては絶えることなく引き継がれている) ワークシートの作業を支援する 歌舞伎は、伝承の担い手や場所が「変わる」ことで、復活できていることに気づかせたい 	<ul style="list-style-type: none"> 「高屋東小学校」をスポットライト→短い中継 保存会担当者の解説録画を再生 担当者の話にあわせて、写真パネル(歌舞伎の変化)を大きく提示 T1メインに切り替える
<p>Q5 私たちのまちの伝統文化(芸能や行事)は10年後どうなっているだろう。(ホンネで)予想しよう</p> <p>① 続いている vs 終わっている どう思う？</p> <p>② 「●●生き残り大作戦」を立てよう。どうすれば続きそう？</p> <p>③ 広島大学の専門家からコメントをもらおう</p> <p><終結> Q6 2時間目のまとめだよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 続いている。なぜなら今やっている子どもが大人になって、次の子どもに教えているから 終わっている。なぜなら人口が減ったり、年寄りがふえたりして、教える人もやる人もいなくなるから YouTubeで参加者募集をする ●●検定をつくって表彰する 伝統を引き継ぐのはとても大変、例えば、都会で火をたく「とんど」を続けるは難しい <p>白市で歌舞伎が復活したのは、地域のお年寄りが、踊る内容は「変えない」で、踊る人や教える場所を「変える」ことで、新しい伝統を作っていくこととしたから。私たちのまちでも伝統を続けることは簡単ではないよなあ・・・。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の「伝とう」(芸能や行事)を1つ選んで、10年後を予想させる 児童には、フォーマットを示して、①10年後の予想と②生き残り策を発表させる。意見を集約してクラスの見解をチャットで報告する 伝統文化に対する地域の関心、高齢化や人口減少、児童数の減少などに着目させる 指名されたら、代表児童が発表 	<ul style="list-style-type: none"> チャットの書き込みをパワーポイント(シート)に貼り付けていく 各クラスの予想を、立場に分けて色分けしておく 人力を終えたら、パワーポイントを俯瞰できるようにする 広島大学(川口研究室)をスポットライト→中継 ギャラリービューで各クラスのよさを俯瞰させる 全ての中継箇所をスポットライト

6. 黒板に貼付する写真(パネル)

パネル1～8はインターネットや書籍等から引用した画像が含まれ、本書に引用・掲載が困難なため、代わりに当時作成した教材の概要と資料の出典を13～16頁に示した。

5 6 7 8

2回よみがえった白市のかぶさのれきし
・江戸時代 かぶさ小屋の始まり
→ 長栄屋、上方かぶさをよぶ
・1975年 おわり
・1993年 地元大人のかぶさ
→ 白市の文化を考える会
・2015年 おわり
・2019年 地元の子どものかぶさ
→ コロナでいったん中止
学校行事としては続く

3. 資料

※実践時の配布資料より(一部改変)

- ◆黒板に貼り付けるパネル(すべてパワーポイントスライドで作成)

ウ 年	パン給食 導入	ア 年	牛乳の 本格供給
<p>昭和27年と昭和40年の給食の写真と献立の内容</p> <p>https://yamagaku.or.jp/public_utility/lending/year_model をもとに作成)</p>			

エ 年	米飯給食 導入	イ 年	地産地消の 取組みを 実施
<p>昭和52年と平成14年の給食の写真と献立の内容</p> <p>https://yamagaku.or.jp/public_utility/lending/year_model をもとに作成)</p>			

1960年ごろさつえい
古いタイプのおどり

昭和30年代の神楽の様子

(出典:広島県安芸高田市総合(監修)、安芸高田神楽協議会(協力)、
安芸高田二十二神楽団(編)『ひろしま安芸高田神楽帖』神楽門前湯治村、
2013年、p.124)

2010年ごろさつえい
新しいタイプのおどり

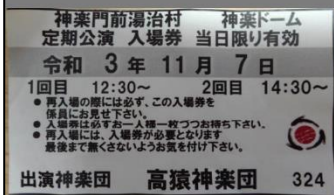
神楽ドームでの公演時の写真

(出典:https://www.suntory.co.jp/news/article/mt_items/l_13801-5-1.jpg)

2020年ごろさつえい
神楽ドーム

神楽ドームでの公演時の写真

(※現在は閲覧不可,類似の写真イメージは<https://jakyosai-hiroshima.jp/img/report/201909/02.jpg>などを参照のこと)



<https://www.hiroshima-navi.or.jp/event/2019/05/035591.html>

※チケットは教育ヴィジョン研究センタースタッフによる取材時の実物

1960年ごろさつえい
白市の「長栄座」

昭和30年ごろの「長栄座」の写真

http://www.pressnet.co.jp/article/191114_01.php

1993年さつえい
第1回 白市かぶき

1993年、住民による1回目の「白市歌舞伎」の写真(中央)
と2010年の「白市歌舞伎」の写真(右下)

2010年さつえい
第18回 白市かぶき

http://www.pressnet.co.jp/article/191114_01.php
<https://pc.tamemap.net/3421251/activities/34212510089/reports/2738>

2019年さつえい
第1回 白市子どもかぶき

2019年の「白市子ども歌舞伎」の写真(中央・右下)

https://www.higashihiroshima-digital.com/news_191226-12/

2回よみがえった白市のかぶきのれきし

- 江戸時代 歌舞伎小屋の始まり
→ 長栄座, 上方かぶきをよぶ
 - 1975年 おわり
-
- 1993年 地元の大人のかぶき
→ 白市の文化を考える会
 - 2015年 おわり
-
- 2019年 地元の子どものかぶき
→ 高屋東小学校

◆発表用スライドテンプレート

〇〇小 まちの伝とうの未来予想

私たちのまちの「伝とう」とは

「●●●●●●」



- (1) 10年後 …… となっていると思います。
なぜなら …… だからです。
- (2) 10年後の「生き残り大作戦」を立てよう
 - ・ すればいいよ。
 - ・ してはどうでしょう。
 - ・ が考えられます。

板書計画

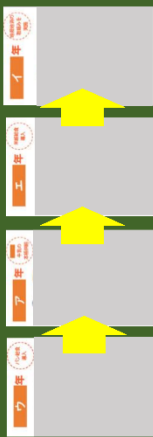
「変わらない」「変わる」をみつけよう

きゅう食の変化

- 品数がふえた
- デザートがついた
- お皿がプラスチックに

△ ずっと牛にゆう, 入れ物はアルミ, ビン, 紙パック

△ 子どもにも元気に, 健康になってほしい



「伝とう」とはなに?

変わらない! ずーっといっしょ, それホント?

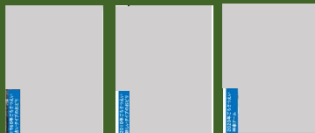
△ 変えない + ● 変える (両方セット)
新しくして古いものを残す人々のくふう

かぶぎは, なぜふっ活したのか?

かぶぎ

- ▲ おどるのが好き, 白波五人男
- プロの役者 → 地いきの人
- 地元の大人 → 子ども
- 長栄座 → まちおこし, 地いきセンター
→ 学校の行事でも教える

★ 人や場所を変えて, 伝とうを生み出す



副読本pp.97-106で教材研究できます。

児童には, 事前に神楽や歌舞伎の動画を事前に視聴させておくことをお勧めします。「のん太の学び場」の「子どもかぶぎ」も参考となります。

・給食の4枚の写真

・神楽の3枚の写真 ・歌舞伎の3枚の写真

・私たちのまちの伝統文化の10年後の予想 書き込みフォーマットは, 後日送付します。ご利用ください。

名前 ()

めあて

1.きゅう食の変化

めあて

5.東広島の伝とう文化

2.「伝とう」のイメージ

4.まとめ:「伝とう」とは

3.神楽…伝とう文化 (○ か × か)

変わった

変わらない

6.かぶき…伝とう文化 (○ か × か)

変わった

変わらない

ふりかえり

◆ワークシート(2枚目)



4つの年代の給食の献立に関する資料

(出典:https://yamagaku.or.jp/public_utility/lending/year_model)

◆参考:神楽門前湯治村で行われた神楽の様子





※2021年11月7日教育ビジョン研究センタースタッフによる撮影, 掲載許諾済み

4. 実施報告

※以下、文章と写真は [EVRI ウェブサイトの開催報告記事](#)より引用、一部改変。

※開催報告動画は [YouTube チャンネルにてご覧頂けます](#)。

開催報告記事はこちら 	YouTube チャンネルはこちら 
---	--

2021年11月17日に、東広島市内小学校3校4学級(原, 高屋東, 造賀)の4年生(51名)が参加し、「伝とう」をテーマとする授業を実施しました。2時間を通した学習課題は「『伝とう』って変わっていいの? 私たちのまちの伝とうの未来を予想しよう」に設定されました。

1時間目の導入は、給食の4枚の写真を見て古い順に並べかえるクイズから始まりました。児童はタブレットを使って回答しました。教室では、給食の変化をつぶさに眺めて、①主食・おかず・飲み物という組み合わせ、子どもには元気に育ててほしいという願いは「変わらない」ことを見いだすとともに、②品数の増加、栄養の高まり、洋風化、地産地消などの「変わっている」ところを見つけていきました。

1時間目前半では、歌舞伎や能など「伝統」芸能の具体を確認するとともに、その「伝統」とは「変わる」こと「変わらない」こと、どちらを意味するかについてイメージをタブレットで投票をしました。投票の結果、「変わらない」が多数派でしたが、「変わる」と主張する子どもも一定数いたため、その違いと理由を確認していきました。

1時間目後半では、広島県の芸能の一つ「神楽」が定期的に公演されている神楽門前湯治村からの中継を結びました。また安芸高田市役所の神楽専門家のお話を視聴し、①豊作を祈る思いは昔から「変わらない」こと、②しかし、その運営は信仰や祭礼の場から徐々に観光化・商業化が進み「変わっている」こと、③「変わっていく」ことで伝統を受け継ぐことができること、④「神楽」を残していくために、大都市や海外で講演したり、高校生の大会(神楽甲子園)を主催したりしていることなどを確認しました。最後に、伝統とは「変わらない」ことだから「神楽」は伝統とはいえないのか、それとも「変わり」ながら続いているからこそ「神楽」は伝統といえるのか、児童の「伝統」認識に揺さぶりをかけました。

2時間目の導入では、各学校で受け継がれている文化を相互に紹介し合いました。各学校から、とんどや地域のお祭り、伝説をもとにした劇、などが紹介されました。

2時間目の前半では、明治時代から「歌舞伎」が演じられている白市地区の高屋東小学校から中継を結びました。また白市で歌舞伎を引き継いでいる方のお話を視聴し、歌舞伎の演者は、①上方のプロから、素人の地域住民へ、そして子どもへと「変わっている」こと、②歌舞伎は2度「終わる」も、歌舞伎が好きで地域に残したいと願う人々の手でその都度「復活」してきたことを確認しました。

2 時間目の後半では、自分たちの学校の文化が 10 年後どうなっているかを予想しました。各学校では、学校がある限り・記念の絵がある限り残るはずだ、自分たちもやって楽しいから残っていくはず、との予想と理由が発表されました。最後に、広島大学の川口広美准教授からコメントをもらいました。川口准教授は、①各学校には様々な文化があり、どの学校も上手に紹介できていたこと、②伝統を守るという気持ちを大事に思い続けてほしいこと、③伝統は守るだけが大事でなく、遊びたい・家族と過ごしたいなど色々な人の思いを大事にし、「何を残し、何を変化(変身)させていくか」を考えてほしいとお話されました。

2 時間の学習を通して、「伝統」を変化と持続という視点から探究しました。「伝統」とは、昔からそのまま受け継がれたものではなく、携わる人々の手で絶えず作り替えられてきていることを学びました。

ご協力いただいた全ての関係者に御礼を申し上げます。



原小学校にて授業を進行する様子
(草原教授)



給食の変化について発表する様子



神楽ドームからの中継の様子
(津田さん)



神楽の舞を観察する子どもたち



伝統の意味を考える様子



意見を他の学校に発表する様子



子どもに意見を聞く様子
(草原教授)



高屋東小学校からの中継の様子
(川上さん)



伝とうについてコメントする様子
(川口准教授)



他校と交流をする様子

5. 児童用アンケートの結果(11月・12月実施分合同)

広域交流型オンライン社会科地域学習 2021年11/12月期 児童用アンケートの結果(自由記述の分析)

【分析の手続き】

- 広域交流型オンライン社会科地域学習(2021年11/12月期実施分)に対する児童の意識を探索的に明らかにするために、アンケート問7「感想を教えてください。」への回答についてテキストマイニングによる分析を行った。
- 分析には、KH Coder (Version. 3. Beta. 03d) を用いた。
- 分析対象となる児童の記述のうち、次の語句については事前に修正を施している。①明らかに誤字・脱字として認められるものは、正しい表記に修正した。例えば、「じぎょうをうける」は「授業を受ける」に直している。②漢字・仮名交じりで表記が揺れている語句は漢字表記に統一した。例えば、「でんとう」、「伝とう」は全て「伝統」に直している。③同義と考えられる語句は統一した。例えば、「めっちゃ」、「とても」はともに程度が大きいことを表す副詞と解されるため、「めっちゃ」を「とても」に合わせた。④繰り返し表現は除した。例えば「とてもとても」は「とても」に修正した。⑤そのほか、一部の表現をより妥当な処理ができる形へと修正した。
- 分析の際、複合語は一語として処理した。例えば、「白市」は「白」「市」ではなく、「白市」として処理した。
- 以上の設定で、①抽出後リストの作成、②共起ネットワーク(=単語が同時に出現する関係性を示したものの)の作成を実行した。

【分析に対する簡単な考察】

- 11月期・12月期ともに参加学校数・児童数が少なかった。そのため、抽出後リスト(総計上位50語)の中には出現回数が1,2回にも関わらずランクインする語が見られた。共起ネットワークも、従来の条件下においては歪な形状をしている。以上より、この2か月の記録については、あくまで参考記録として参照すべきであろう。
- 11月期は、「いろいろ」な「学校」や「地域」の「伝統」「文化」を「知る」ことができた「楽しい」と感じた児童が多数であったと推察される(Subgraph 01)。「歌舞伎」や「神楽」という具体的な名詞を以て感想を書いた児童の数よりも、「伝統」の語を用いた感想を記述していた児童の数が多いため、児童が「伝統」という概念を認識できたことが窺える。他方で、本学習でキーとなる動詞の「変わる」が出現上位の語として表われなかった点に留意する必要がある。
- 12月期は、一部の児童について「変わる」「変化」といった視点を獲得できたと考えられる(Subgraph 01)。それは「比べる」という操作によって達成されたことが共起関係から分かる。しかし、それよりも頻出していた動詞が「分かる」「知る」であった。さらに、これらの知覚動詞と共起していたのは「駅」であった(Subgraph 02)。以上から、今回の授業が、町の移り変わりの学習ではなく、駅の学習に留まっていた可能性がある。量的調査の満足度も勘案すると、本時の学習は小学3年生にとっては難解であったのかもしれないと考えられる。

抽出語リスト（総計上位 50 語）¹

【12 月期（駅や町の移り変わり・小学 3 年生）】

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
駅	79	学校	14	たくさん	6	少ない	4	親	3
昔	44	町	14	次	6	先生	4	人口	3
楽しい	37	オンライン	13	変化	6	大学生	4	説明	3
分かる	37	嬉しい	13	様子	6	比べる	4	前	3
今	34	授業	13	意見	5	聞く	4	全然	3
知る	27	学ぶ	10	見る	5	外	3	東広島	3
思う	18	教える	10	大学	5	学習	3	不思議	3
いろいろ	17	調べる	9	変わる	5	今日	3	理由	3
違う	16	受ける	7	勉強	5	事	3	びっくり	2
他	15	人	7	行く	4	自分	3	インターネット	2

【11 月期（伝統文化・小学 4 年生）】

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
伝統	26	歌舞伎	6	たくさん	3	いつか	2	伝える	2
楽しい	20	分かる	6	オンライン	3	クイズ	2	白市	2
いろいろ	18	学ぶ	5	意見	3	一緒	2	発表	2
学校	17	授業	5	嬉しい	3	外	2	すみません	1
知る	17	神楽	5	考える	3	次	2	それぞれ	1
文化	17	自分	4	行く	3	自慢	2	な	1
思う	16	少し	4	小学校	3	色々	2	びっくり	1
他	15	調べる	4	先生	3	説明	2	インタビュー	1
地域	14	聞く	4	勉強	3	大学	2	リモート	1
人	8	ありがとう	3	本当に	3	中継	2	意味	1

【10 月期（消防署・小学 3 年生）】

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
消防署	138	他	41	調べる	20	分署	14	びっくり	9
楽しい	123	見る	38	外	19	違う	13	考える	9
知る	118	ありがとう	37	教える	19	救急車	12	次	9
いろいろ	97	分かる	35	先生	19	小学校	12	受ける	9
人	51	オンライン	34	勉強	19	消防士	12	新しい	9
消防車	49	思う	34	高屋分署	18	大学生	11	西分署	9
学ぶ	48	聞く	29	意見	15	学習	10	違い	8
授業	45	たくさん	21	一緒	15	計画書	10	時間	8
学校	42	車	21	種類	15	行く	10	コロナ	7
嬉しい	42	社会	20	大学	15	話	10	今度	7

¹ 動詞を赤色，学習内容に関連する名詞を青色で表した。

【9月期（災害・小学4年生）】

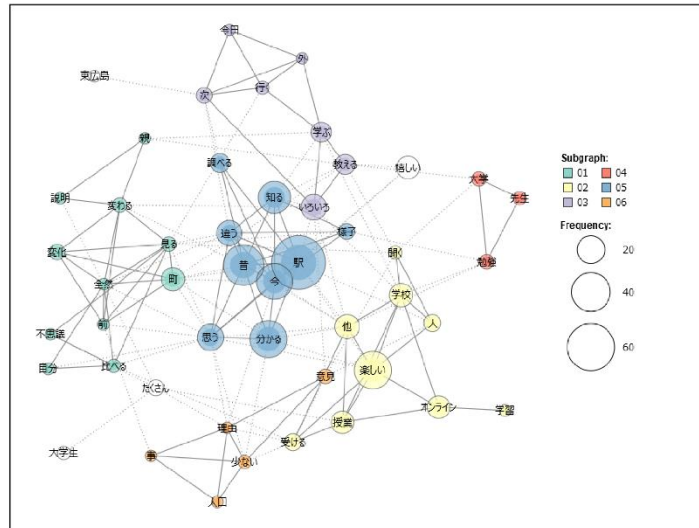
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
災害	211	危険	54	土石流	28	意見	19	実際	12
知る	146	人	49	聞く	28	話	19	小学校	12
分かる	139	見る	48	オンライン	26	嬉しい	16	昔	12
いろいろ	91	学校	46	教える	25	気	16	言う	11
思う	79	先生	45	良い	24	低い	16	専門家	11
楽しい	78	学ぶ	38	ドローン	23	勉強	16	インターネット	10
起きる	76	場所	35	大学	23	怖い	15	クイズ	10
授業	59	自分	34	調べる	22	外	14	土砂崩れ	10
地域	58	たくさん	30	行く	21	社会	14	ハザードマップ	9
他	55	浸水	28	東広島	20	危ない	13	一緒	9

【7月期（小売店・小学3年生）】

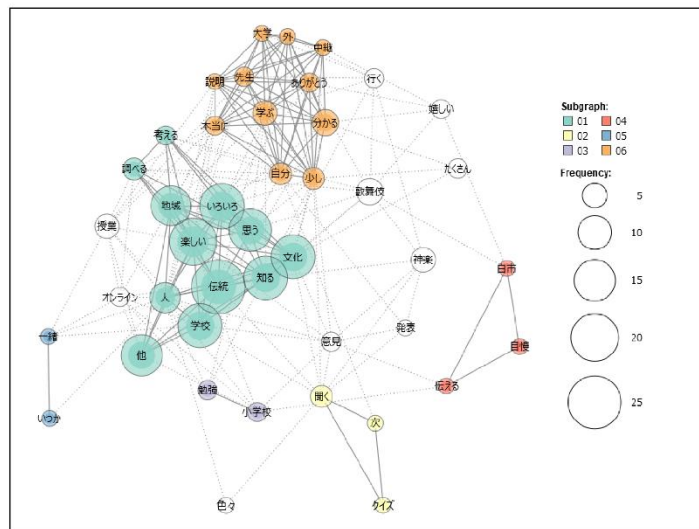
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
店	347	勉強	101	違う	57	違い	33	発表	24
いろいろ	298	嬉しい	98	次	53	意見	31	初めて	23
楽しい	285	行く	83	クイズ	47	しゃくなげ館	30	今日	22
知る	204	オンライン	82	大学	47	キャッチフーズ	29	詳しい	21
学校	165	社会科	76	たくさん	46	受ける	28	大学生	20
人	151	スーパーマーケット	70	インターネット	46	野菜	28	友達	19
他	137	一緒	69	聞く	44	工夫	27	考える	18
授業	131	小学校	63	見る	37	種類	26	好き	17
思う	125	先生	58	学習	35	直売所	26	ショーじ	16
学ぶ	107	調べる	58	教える	35	売る	26	タブレット	16

共起ネットワーク²

【12月期（駅や町の移り変わり・小学3年生）】



【11月期（伝統文化・小学4年生）】



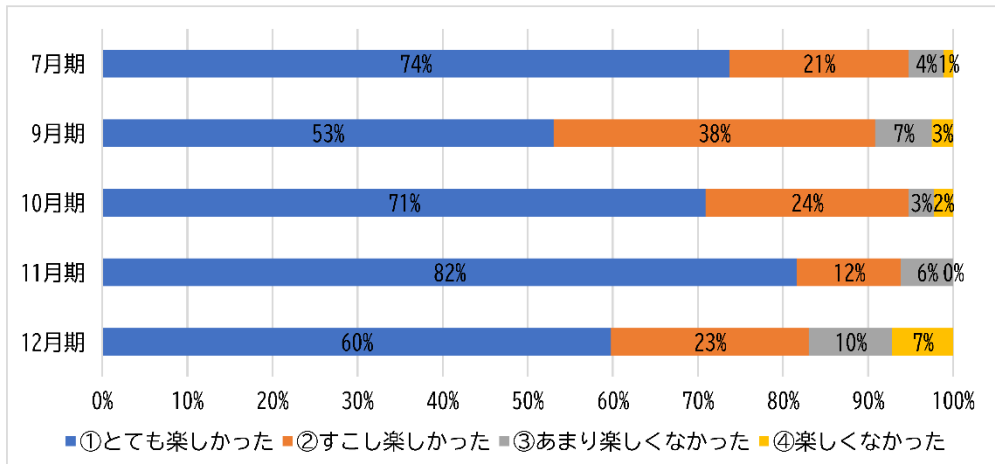
² Jaccard 係数が 0.1 以上の共起関係を示した。円の大きさは語句の出現頻度を，線は共起関係を示す。円の位置や，円間の距離に意味はない。

広域交流型オンライン社会科地域学習
2021年11/12月期 児童用アンケートの結果（量的データの単純集計）¹

全参加校の総計

問1 「〇〇〇〇」について学んだじゅぎょうは、どうでしたか。²

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期
①とても楽しかった	635	191	217	40	67
②すこし楽しかった	182	136	73	6	26
③あまり楽しくなかった	35	24	9	3	11
④楽しくなかった	10	9	7	0	8
計	862	360	306	49	112

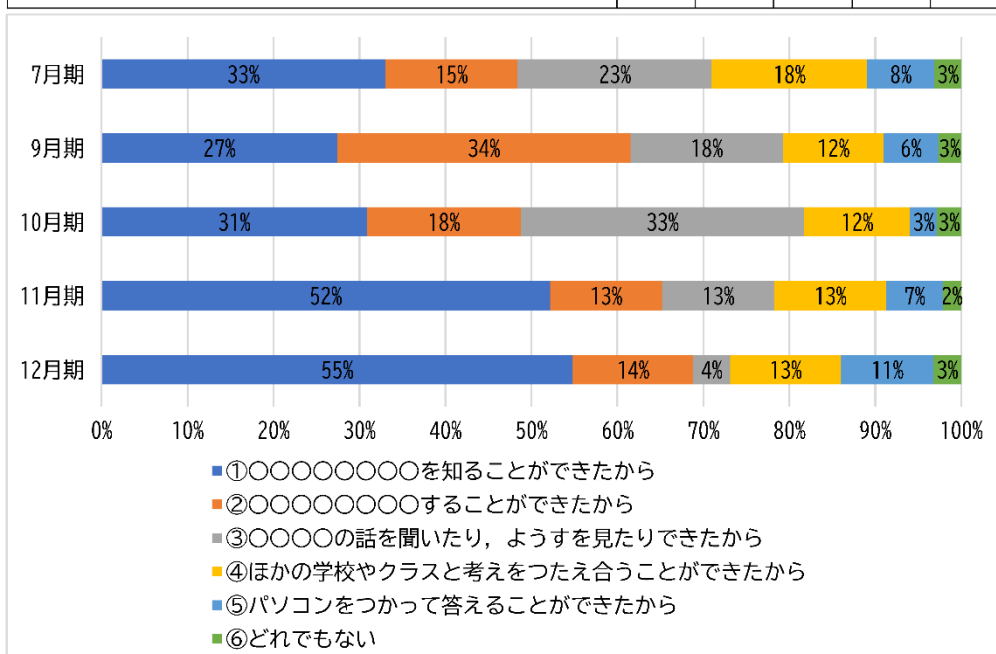


¹ 複数回答は無効回答として処理した。なお、7・10・12月期は小学3年生を、9・11月期は小学4年生を対象とした授業である。

² 7月期は「お店」、9月期は「さい書」、10月期は「消ぼうしょ」、11月期は「伝とう文化」、12月期は「駅やまちの変化」の授業について問うている。

問2 問1で①と②と答えた人に聞きます。なぜ「楽しかった」のですか。³

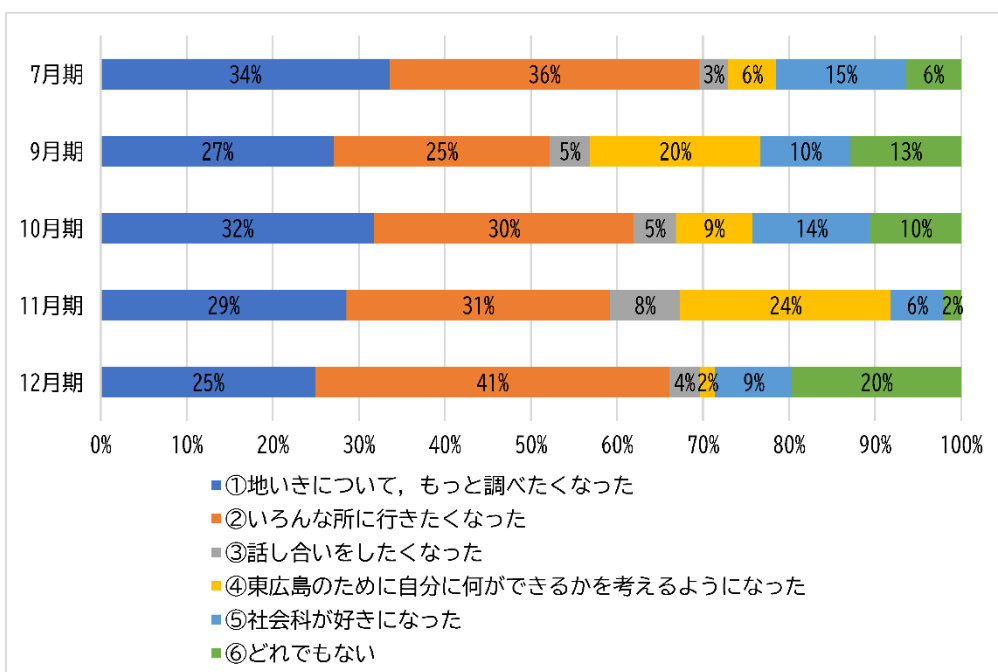
回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期
①○○○○○○○○○を知ることができたから	265	82	88	24	51
②○○○○○○○○○することができたから	124	102	51	6	13
③○○○○○の話を聞いたり、ようすを見たりできたから	181	53	94	6	4
④ほかの学校やクラスと考えをつたえ合うことができたから	145	35	35	6	12
⑤パソコンをつかって答えることができたから	63	19	9	3	10
⑥どれもでない	25	8	8	1	3
計	803	299	285	46	93



³ 7月期は「①いろいろな店を知ることができたから」、「②店のちがいをキャッチフレーズに表すことができたから」、「③店の人の話を聞いたり、ようすを見たりできたから」を選択肢とした。9月期は「①いろいろなさい書を知ることができたから」、「②地いきのキケンなところを見つけることができたから」、「③さい書について、話を聞いたり、ようすを見たりできたから」を選択肢とした。10月期は「①消ぼうしよのちがいを知ることができたから」、「②高屋分しよ計画書をつくることができたから」、「③消ぼうしよの人の話を聞いたり、ようすを見たりできたから」を選択肢とした。11月期は「①いろいろな伝とう文化について知ることができたから」、「②地いきの伝とう文化の未来を予想することができたから」、「③伝とう文化を受けつぐ人の話を聞いたり、ようすを見たりできたから」を選択肢とした。12月期は「①昔や今の駅のようすについて知ることができたから」、「②私たちのまちのうつり変わりを発見することができたから」、「③まちのうつり変わりについて話を聞いたり、見たりできたから」を選択肢とした。

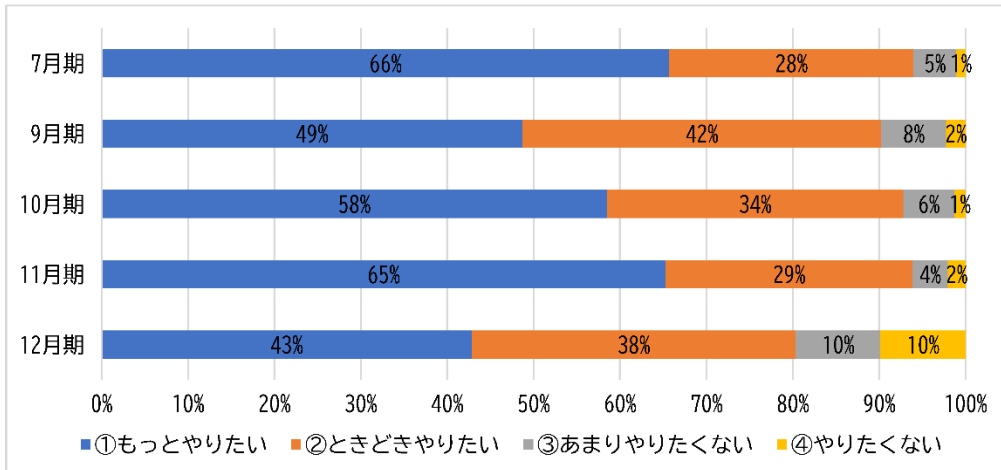
問3 じゅぎょうの後、どんなことを考えましたか。

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期
①地いきについて、もっと調べたくなった	288	93	97	14	28
②いろんな所に行きたくなった	308	86	92	15	46
③話し合いをしたくなった	29	16	15	4	4
④東広島のために自分に何が できるかを考えるようになった	48	68	27	12	2
⑤社会科が好きになった	129	36	42	3	10
⑥どれもでない	55	44	32	1	22
計	857	343	305	49	112



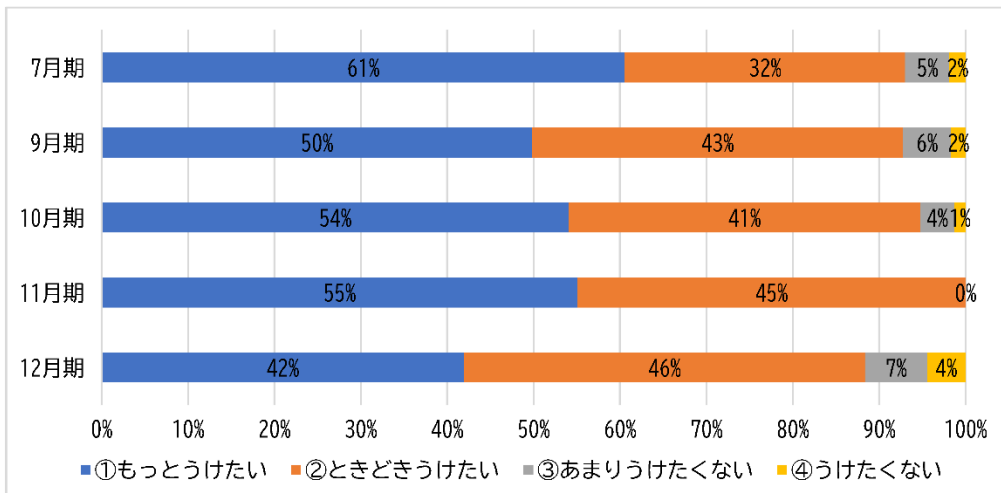
問4 ほかの学校の友だちといっしょに学ぶじゅぎょうは、どうでしたか。

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期
①もっとやりたい	566	175	179	32	48
②ときどきやりたい	243	149	105	14	42
③あまりやりたくない	43	27	18	2	11
④やりたくない	9	8	4	1	11
計	861	359	306	49	112



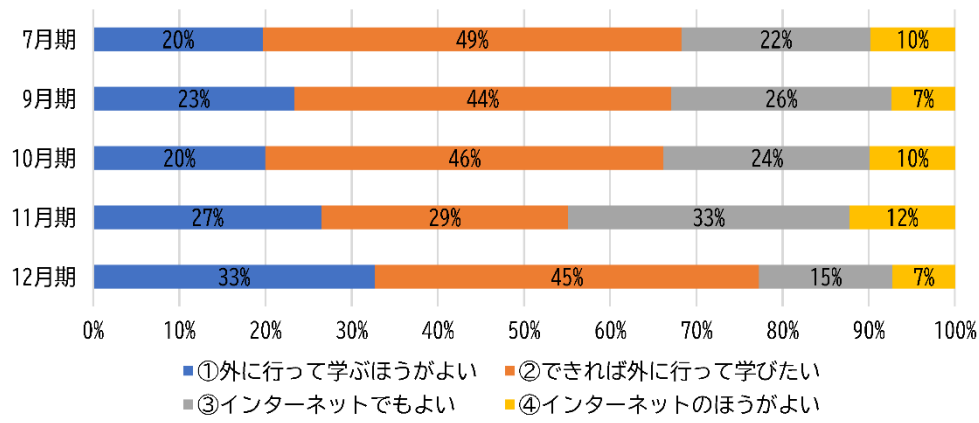
問5 大学の先生や大学生が行うじゅぎょうは、どうでしたか。

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期
①もっとうけたい	521	179	165	27	47
②ときどきうけたい	279	149	124	22	52
③あまりうけたくない	44	27	12	0	8
④うけたくない	16	8	4	0	5
計	860	363	305	49	112



問6 校外に出かけるじゅぎょうとくらべて、どうでしたか。⁴

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期
①外に行って学ぶほうがよい	169	83	61	13	36
②できれば外に行って学びたい	416	155	141	14	49
③インターネットでもよい	188	91	73	16	17
④インターネットのほうがよい	84	26	30	6	8
計	857	355	305	49	110



⁴ 7月期は「①店に行って学ぶほうがよい」、「②できれば店に行って学びたい」を選択肢とした。

6. 担当者・協力者一覧

◆ 企画・運営機関

広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)

草原 和博 (人間社会科学研究科・教授)

宇ノ木 啓太 (教育研究推進員)

草原 聡美 (教育研究推進員)

吉田 純太郎 (教育研究推進員)

川本 吉太郎 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程後期)

今井 祐介 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)

川上 由美 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)

澤田 百花 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)

藤井 冴佳 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)

大岡 慎治 (教育学部 第二類 社会系コース)

國重 和海 (教育学部 第二類 社会系コース)

佐藤 莉沙 (教育学部 第二類 社会系コース)

正出 七瀬 (教育学部 第二類 社会系コース)

津田 晃希 (教育学部 第二類 社会系コース)

◆ 連携・実施機関

東広島市教育委員会学校教育部

教育総務課情報教育推進室

沖 秀治 (室長)

三井 成宗 (室長補佐兼係長兼指導主事)

◆ 協力者

安芸高田市産業振興部商工観光課 松田 祐生 様

白市歌舞伎有識者 大多和 孝 様

広島大学大学院人間社会科学研究科・准教授 川口 広美 先生

※所属や職階は、2022年3月末日時点のものです。

EVRI 研究プロジェクト叢書 Vol.12

2021 年度東広島市広域交流型オンライン地域学習
-2021 年 11 月実践「『伝とう』って変わっていいの？
私たちのまちの伝とうと未来を予想しよう」-

発行日 2022 年 9 月 30 日

編著者 草原和博・大坂遊・宇ノ木啓太・草原聡美・
吉田純太郎

編集 広島大学教育ビジョン研究センター (EVRI)

印刷 (株)ニシキプリント



EDUCATIONAL
VISION
RESEARCH
INSTITUTE